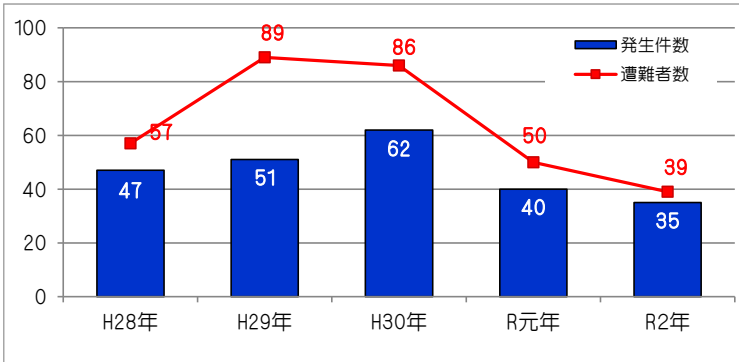


冬山シーズンにおける山岳遭難発生状況(北海道)

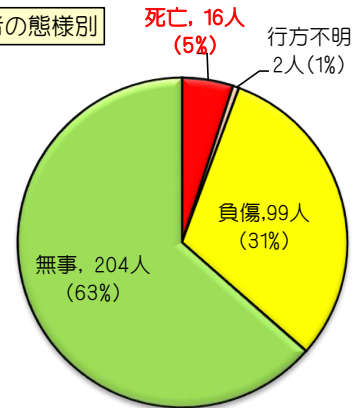
(冬山シーズンは、毎年11月から翌年3月までの間)

□ 冬山遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	計
発生件数	47	51	62	40	35	235
遭難者数	57	89	86	50	39	321
死亡	3	5	0	5	3	16
行方不明	0	0	1	1	0	2
負傷	19	24	24	16	16	99
無事	35	60	61	28	20	204



遭難者の態様別



- 過去5年の冬山シーズン中、道内で発生した山岳遭難の発生件数は235件、遭難者数は321人(令和2年冬山シーズンは前年比-5件、-11人)
- 発生件数、遭難者数共に令和元年冬山シーズンから減少傾向にあり、新型コロナウイルスの影響による外出自粛や外国人登山者の減少が要因のひとつと考えられます。

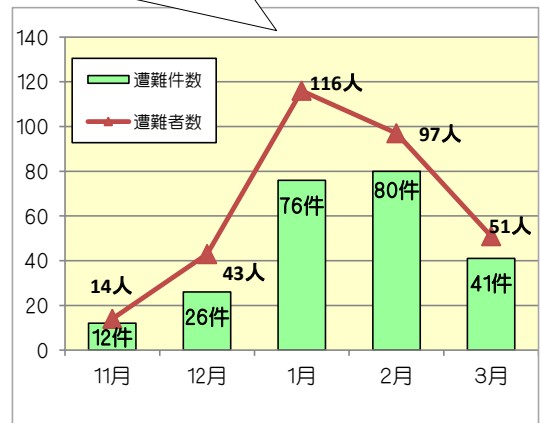
過去5年間の冬山シーズン遭難発生状況を月別で見ると、1月と2月に発生が多く、発生件数は2か月間で全体の約7割近く(66.4%)を占めています。

□ 月別遭難発生件数(過去5年冬山シーズン)

年	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年	1	6	14	15	11	47
平成29年	2	4	16	17	12	51
平成30年	2	6	26	19	9	62
令和元年	1	7	10	15	7	40
令和2年	6	3	10	14	2	35
計	12	26	76	80	41	235

□ 月別遭難者数(過去5年冬山シーズン)

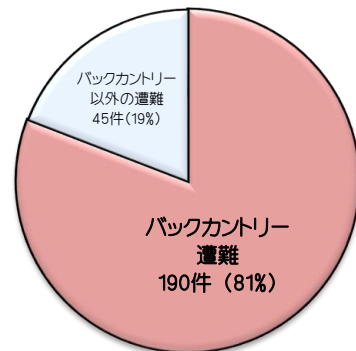
年	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年	1	6	17	17	16	57
平成29年	2	15	29	28	15	89
平成30年	3	11	41	20	11	86
令和元年	1	7	18	17	7	50
令和2年	7	4	11	15	2	39
計	14	43	116	97	51	321



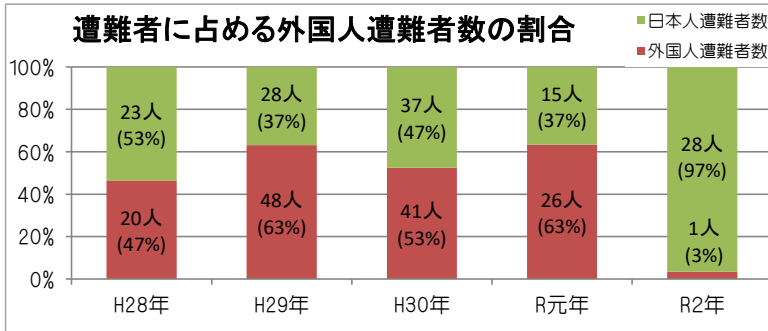
□ バックカントリー遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	計
発生件数	36	40	56	32	26	190
遭難者数	43	76	78	41	29	267
外国人遭難者数	20	48	41	26	1	136
死亡	1	0	0	5	3	9
行方不明	0	0	0	1	0	1
負傷	17	18	31	11	13	90
無事	25	58	47	24	13	167

冬山遭難におけるバックカントリー遭難件数の割合



遭難者に占める外国人遭難者数の割合



- 冬山シーズンの遭難は、バックカントリー遭難が全体の8割を占めます。
- 令和2年シーズンの外国人遭難者は1人で、前年比-25人と大幅に減少しており、新型コロナウイルスの影響により、外国人登山者が減少したことが、要因のひとつと考えられます。

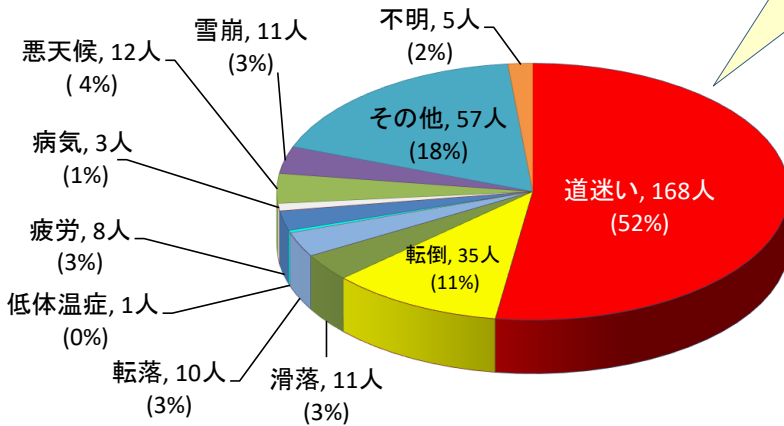
□ 遭難者の原因別人数(過去5年冬山シーズン)

	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	計
遭難者数	57	89	86	50	39	321
道迷い	32	55	41	26	14	168
転倒	6	12	8	5	4	35
滑落	1	3	2	4	1	11
転落	2	4	1	2	1	10
熱中症	0	0	0	0	0	0
低体温症	0	0	1	0	0	1
疲労	0	3	4	1	0	8
病気	1	0	0	2	0	3
悪天候	0	5	6	1	0	12
雪崩	2	1	0	4	4	11
その他	12	5	22	4	14	57
不明	1	1	1	1	1	5

冬山シーズンにおける遭難原因のうち最も多いのは、道迷いによる遭難で、全体の約5割以上を占めています。
 冬季は登山道が積雪で埋まっているため、進む方向を見失いやすく、また、吹雪等の悪天候により、視界が真っ白に包まれる、「ホワイトアウト」の状態に陥る危険性もあることから、ハンディGPSを携帯するなどの道迷い防止対策が重要です。
 近年、スマートフォンの地図アプリを活用する登山者が増加していますが、冬季は低温により、バッテリーの消耗が激しいため、モバイルバッテリーを携帯するなど、バッテリー切れを予防しましょう。

冬山シーズンの遭難原因上位

- 第1位 「道迷い」(168件)
- 第2位 「その他」(57件)
(その他～立木衝突、装備不備、病気等)
- 第3位 「転倒」(35件)



道迷い



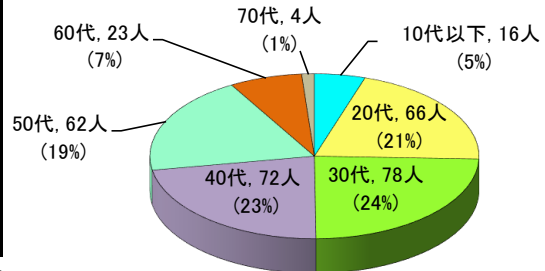
転倒

□ 遭難者の年代別内訳(過去5年冬山シーズン)

	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	計
遭難者数	57	89	86	50	39	321
10代以下	4	8	3	0	1	16
20代	9	17	20	14	6	66
30代	16	16	19	17	10	78
40代	11	21	25	7	8	72
50代	9	23	15	6	9	62
60代	6	4	4	5	4	23
70代	2	0	0	1	1	4
80代以上	0	0	0	0	0	0

※ 冬山シーズンの山岳遭難者を年代別で見ると、30代が最も多く、40代、20代、50代と続く。

山岳遭難者の年代別内訳(過去5年冬山シーズン)



□ 雪崩を原因とする山岳遭難発生状況(過去5年冬山シーズン)

	発生年月日	発生場所	遭難者	死傷等別
1	平成29年2月25日	ニセコアンヌプリ	2(1)	死亡1、負傷1
2	平成30年2月28日	風不死岳	1	死亡1
3	令和2年1月30日	トマム山	1(1)	死亡1
4	令和2年2月1日	敏音知岳	1(1)	死亡1
5	令和2年2月10日	羊蹄山	1	死亡1
6	令和2年3月5日	ニトヌプリ	1	負傷1
7	令和3年1月26日	1107峰(赤井川村)	1	死亡1
8	令和3年2月28日	上川岳	2	負傷1、無事1
9	令和3年2月28日	余市岳	1	死亡1

※0内の数字は外国人の数が内数

過去5年間で、雪崩を原因とする遭難は9件発生しており、そのうち2月の発生が6件で全体の約7割近く(67%)を占めています。
 雪崩が発生するおそれがある斜面には近づかないようにするとともに、万が一、雪崩に巻き込まれた場合のために、ビーコン、プローブ、ショベル等の雪崩対策装備を携帯しましょう。

雪崩遭難の発生した月(過去5年冬山シーズン)

11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	2	6	1	9

